

指標項目の設定

資料 3

環境教育と協働の推進

8年後のまちの姿		成果指標		
		項目	現状 (平成25年度)	目標 (平成34年度)
市民一人ひとりがあらゆる場面で環境に関わり、考える機会を持つことにより、市全体の環境意識が向上し、環境配慮行動が持続的に実践され、環境保全の取組みが脈々と受け継がれていく環境意識の高いまち	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの市民が環境に関わり、環境のことを考える機会が増えています。 ・市民一人ひとりの環境に対する意識が向上しています。 ・環境に配慮した行動が実践できています。 ・環境保全活動が次の世代に引き継がれ、多くの担い手が育てられています。 	低炭素社会の創造, 循環型社会の創造, 生物多様性の保全, 快適な生活環境の創造の各施策に掲げる目標を当該施策に掲げる指標とします。		

低炭素社会の創造

8年後のまちの姿		成果指標		
		項目	現状 (平成25年度)	目標※ ₁ (平成30年度)
都市と田園が調和した持続可能な発展のもとに、再生可能エネルギーの普及やエネルギーの利用効率化が進み、過度な自動車依存からの脱却やライフスタイルの転換などにより化石燃料の使用が必要最小限なまち	<ul style="list-style-type: none"> ・都市と田園が調和した持続可能なまちとして発展しています。 ・再生可能エネルギーの普及やエネルギーの効率的利用が進んでいます。 ・徒歩や自転車での移動がしやすく、環境に配慮した交通システムが充実しています。 ・低炭素型のライフスタイルが定着し、温室効果ガスの排出が少ない社会になっています。 	市域の温室効果ガス排出量	694万t※ ₂	624万t※ ₃
		もみ殻のエネルギー活用	—	活用の実現
		太陽光発電システム導入量(10kW未満)	18,000kW	36,000kW
		1日あたり新潟市自動車総トリップ数削減率	—	2.5%
		1世帯あたりの電気使用量	3,612kWh	3,160kWh

※₁ 平成31年度に当該項目における評価を実施し、目標を再設定

※₂ 平成23年度排出量

※₃ 基準年度(H17年度)比15%削減

循環型社会の創造

8年後のまちの姿		成果指標		
		項目	現状 (平成25年度)	目標 (平成31年度※ ₁)
市民・事業者・市の協働のもと、3R(リデュース(発生抑制)・リユース(再使用)・リサイクル(再生利用))の優先順位で資源が循環利用されるまち	<ul style="list-style-type: none"> ・市民一人ひとりに3Rの意識が浸透し、ごみをできるだけ出さないライフスタイルが定着しています。 ・ごみ分別による資源化が進み、その効果が理解されとともに、分別することがあたりまえのことになっています。 	家庭系ごみ量※ ₂ (1人1日あたり)	501g	474g
		事業系ごみ排出量	84,962t	74,500t
		リサイクル率※ ₃	27.2%	30.9%
		最終処分量※ ₄	29,213t	21,800t

※₁ 平成32年度に当該項目における評価を実施し、目標を再設定

※₂ 家庭系ごみ量:「可燃ごみ」「不燃ごみ」「粗大ごみ」「家庭系直接搬入量(有料分)」の合計

※₃ リサイクル率=資源化量/総排出量

※₄ 資源化又は再利用されるものを除き、最終的に処分(埋め立て等)される廃棄物の量

生物多様性の保全

8年後のまちの姿		成果指標		
		項目	現状 (平成25年度)	目標 (平成34年度)
まちを包み込むように広がる田園を含んだ多様な自然環境が保全され、在来の動植物が保護されるとともに、その象徴として、日本一の越冬数を誇るハクチョウと共存する自然豊かなまち	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然環境と都市の調和が図られ、在来の動植物が共存しています。 ・里潟、里山の保全が引き続き図られているとともに、生物多様性に配慮した農地整備など、環境負荷の軽減に配慮した環境保全型農業が広がっています。 ・市民が本市の豊かな自然環境を誇りに思い、農業や生物多様性の大切さを認識しています。 	生物多様性の象徴としてのハクチョウとの共存	日本一の越冬数	現状を維持
		特定外来生物※ ₁ の種類	10種	現状より減少
		環境保全型農業を実施する農地の割合※ ₂	34.4%	50%

※₁ 日本在来の生物の生活をおびやかす外来生物を国が定めたもの

※₂ 主食用水稻作付面積に占める化学合成農薬・化学合成肥料を5割以上削減した栽培面積の割合

快適な生活環境の創造

8年後のまちの姿		成果指標		
		項目	現状 (平成25年度)	目標 (平成34年度)
きれいでおいしい空気や水に包まれ、手入れの行き届いた花と緑にあふれた、市内外の人にとって魅力的なまち	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみがなく、きれいな水環境や快適な空気が保たれています。 ・花や緑があふれ、きれいなまちになっています。 ・歩いて楽しい魅力的なまちなみになっています。 	生活環境における空気のきれいさ※ ₁ 沿道における空気のきれいさ※ ₂	0.007ppm 0.009ppm	現状より低減
		水がよりきれいなランク※ ₃ になった河川・湖沼の水域数	－	3地点
		食育・花育センターが実施する花育体験プログラム等の実施団体数	30団体	70団体
		保育所、幼稚園、小学校の地域との連携による花育活動実施率	48%	60%
		植栽やビオトープづくり等、美しい農村景観の形成を行う農地の割合※ ₄	78%	90%

※₁ 一般環境大気測定局における二酸化窒素濃度

※₂ 自動車排ガス測定局における二酸化窒素濃度

※₃ ランクとは、河川・湖沼の類型(AA, A, B, C, D, E)に相当するようなきれいさとし、項目としてBOD75%値/COD75%値で評価

※₄ 農地、水路、農道等の質的向上を図る共同活動を支援する「資源向上支払交付金(多面的機能支払交付金事業)」の対象農地の割合